

## 日本無線における共通プラットフォームの取り組み Design Innovation by Platform Technology



取締役 技術担当  
坂本 廣徳  
Hironori Sakamoto  
Director  
Core Technologies Center

映像・音声のデジタル化の進展は、放送と携帯電話の世界を一変させた。かつて高嶺の花だった携帯電話は、誰もが携帯するようになり、放送では、デジタルテレビ・DVDレコーダ・デジタルビデオカメラ等のいわゆるデジタル情報家電が生まれました。そしてこれらの市場は、生き残りを賭けた激しい開発競争を続けながら発展を続けています。

同様に、当社が手がける業務用通信機器、次世代携帯電話基地局、次世代レーダー、次世代船用通信システム等々の先進的な開発においても高度なデジタル化が進み、従来では考えられなかったような大規模開発が必要になっています。これらの要求に応えるには従来の担当部門毎の開発体制では、十分な開発リソースを確保できないため全社的な視点での効率的な開発体制の整備が求められるようになりました。このような背景の中で、共通技術の高度化と共有化を目的とする共通技術本部を2006年10月に発足させ、以後共通プラットフォーム技術の確立と社内展開に注力して取り組んでまいりました。

現在、無線機の制御や変復調部を担うデジタルPF（プラットフォーム）として独自アーキテクチャによる最初のSoC（System on Chip）を完成させ、デジタルタクシー無線機・船用通信機・海外向け高性能無線機等に採用して開発期間の短縮やコストダウンで市場要求に応じています。更なる高速処理と省電力化を図った第2世代のSoCの開発も順調に進行しており、低消費電力が必須な携帯無線機や高速処理が必要な次世代船用通信システム等へと適用範囲も拡大しています。また、ハードウェアの共通化だけでなく、それに搭載されるべきOS、ドライバおよびミドルウェアなどソフトウェアの共通PF開発も併せて進め社内展開しています。一方、無線機の高周波部を担うアナログ技術においては、当社で長年蓄積された設計ノウハウをもとに送受信回路技術や高周波電力増幅回路技術の共通化と高度化を進めています。共通化されたプラットフォームは、デジタルPF、ソフトウェアPF、アナログPFとして社内に公開され、各事業部門にて共通利用できるよう環境整備を進めています。

今、当社には、技術に裏付けられた優れた商品による安定した経営が求められています。団塊世代の退職が進行する中、長年蓄積された技術やノウハウを守り育てていくことは、極めて重要ですので技術情報システム（PDM）や新しい技術者教育システムの構築にも積極的に取り組み、前述の共通PF化と併せて技術環境の整備を推進しています。

技術環境の整備と教育による若手技術者のスキルアップにより技術力を強化して経済的価値を創り出して行くことにより安定した経営の実現を目指しています。関係諸氏のご支援をお願いいたします。